

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:基礎工学部・基礎工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		分野横断・学際融合型の高度専門教育を目的とした低学年向けの基盤科目について計画の約3倍の11科目を新規開講し、さらに令和元年度から実施される全学の新カリキュラムにおける高度教養教育系科目として設定したことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		若手研究者の論文発表数、メディア発信、国際共著論文、国際共著発表、受賞、外部資金獲得がすべて大幅に向上していること、また、共同研究講座2件を新設したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		講義1件、体感科学研究10テーマ、実感科学研究7テーマを担当するSEEDSプログラムにおいて、応募数が年々加速度的に増加しており、昨年度からも40%ほど増加していることが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムとして、「長寿命社会を支えるデータ科学と生体機械工学の融合博士人材育成特別プログラム」が新たに採択されたのに加え、ベトナム国家大学ホーチミン市科学大学と大学院DD協定を新たに締結したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		研究科長の下にキャンパスライフ支援室を設置し、承継ポストを用いて相談員(講師)を4/1に新規雇用することを決定したこと、また、研究科長裁量経費によるクロス・アポイントメント制度の活用により、女性教授を前年度1名から4名へと大きく増加させたことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、新規に締結した点が高く評価できる。 また、常勤教員に占める女性教員の割合について、所属研究者数が多い部局でありながら、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。</p>
--